

Comment

Review: Prevalence and dynamics of *Helicobacter pylori* infection during childhood

Helicobacter 22: e 12399

著者らは直近 5 年間のデータを元に小児期 *H.pylori* 感染に対して、無症候性/健常児と症候性児とに区分し、丁寧にメタ解析を実施している。小児感染率や感染時期については他にも報告があるが、感染持続期間に言及している点は目新しい。本研究の結果からは、小児 *H.pylori* 感染率は、疫学的には血清陽性率で評価可能であると考えられる。

H.pylori 感染率は、国の社会経済的背景に影響を受けるため、逆にその国のベンチマークとなり得ることから公衆衛生学的側面からも重要な研究である。それにも増して、*H.pylori* 疫学研究の最終的目標は、慢性萎縮性胃炎から発生する胃癌予防対策にあろう。本研究では論じられてはいないが、*H.pylori* 感染率と同様に、*cagA* 遺伝子多形などの発がん性をも考慮した疫学研究結果が得られれば、より緻密な胃癌予防対策が講じやすくなるだろう。

(佐賀大学医学部小児科 垣内 俊彦)
